

# 自転車ヘルメット来月から努力義務

自転車乗車中のヘルメット着用が10月1日に県の条例で努力義務化されるのを前に、西署が高齢者にアンケートを実施したところ、75%がヘルメットを「かぶっていない」と回答したことが署の集計で分かった。着用しない理由は49%が「面倒だ」だった。悲惨な事故を防ぐため、県民の意識改革が求められている。(梶山佑)

## 高齢者75%「かぶっていない」

西署調査「つい面倒で…」



男性へのアンケートでは右上のヘルメットが1番人気だった=西署で

「身を守るために必要なのは理解しているが、つい面倒で」「個人の裁量に任すしかない」…。免許更新などで五~七月に西署を訪れた七十歳以上の百十二人へのアンケート。ヘルメット着用について尋ねたところ、自由記述には後ろ向きな言葉が並んだ。

県内では、昨年までの二年間で自転車に乗っていた九十九人が交通事故で死亡。ヘルメットをかぶっていない二〇一七年から六十五歳以上の着用を努力義務としており、今回対象が全年齢となる。ただ、競技用自転車の乗り手や子どもを除く。実は名古屋市は独自に

かつたのは八十六人で、うち六十四人の死因が頭部損傷だった。

こうした中、県は今年四月に県自転車安全利用条例を施行、周知期間をへて十

月からヘルメット着用が罰則のない努力義務化となる。帽子のような形狀が人気を集めたが、男性では予想

に反し、作業用のような白いヘルメットが好まれた。

やれなヘルメットならかぶつてもらえるはず」と考えていたが、結果は単純ではなかった。アンケートではスポーツ用やファッショニ性の優れた五種類のヘルメ

ツトの写真を示し、着用して着用はほとんど普及しておらず、県の担当者は「コロナ禍で広報活動に限界があつた」と語る。

調査前、署員らは「おしゃれなヘルメットならかぶつてもらえるはず」と考えていたが、結果は単純ではなかった。アンケートではスポーツ用やファッショニ性の優れた五種類のヘルメ

9月23日(木曜日)

## ミッション 自転車事故を減らせ

西署に取り締まり部隊「N-Force」

N-Forceは毎日、四人が主に自転車で巡回。自転車に乗っている人に対し、交通取り締まりをしたり、ヘルメット着用を呼び掛けたりする。この日も自転車に乗った県警第一交通機動隊員と共に管内を回った。

西署管内では昨年、自転車乗車中に交通事故でけがをした人が二百四人いた。市内では中署、中川署、中村署に次いで四番目に多く、「西区は栄や名駅まで自転車で行ける距離なので、利用者が多い傾向がある」と担当者。そこで西署の頭文字「N」を使った取り締まり部隊を編成し、対策を強化することにした。

署はヘルメット着用の大切さを知つてもらおうと、オリジナルのエコバッグを作成した。名古屋高速道路協会や交通安全協会西支部の協力を得て、赤、黒、紺の三色を計二百枚ほど用意。「ヘルメットをしていますか?」といふ意味の英語などが印刷されており、啓発活動などで住民に配る。

六十五歳以上の高齢者は市条例で自転車乗車中にヘルメットをかぶる努力義務があり、十月一日からは全年齢に拡大される。担当者は「頭部への傷害は致命傷になりやすいので、頭を守るためにもぜひかぶってほしい」と話している。

署はヘルメット着用の大切さを知つてもらおうと、オリジナルのエコバッグを作成した。名古屋高速道路協会や交通安全協会西支部の協力を得て、赤、黒、紺の三色を計二百枚ほど用意。「ヘルメットをしていますか?」といふ意味の英語などが印刷されており、啓発活動などで住民に配る。

ツトの写真を示し、着用して着用はほとんど普及しておらず、県の担当者は「コロナ禍で広報活動に限界があつた」と語る。

調査前、署員らは「おしゃれなヘルメットならかぶつてもらえるはず」と考えていたが、結果は単純ではなかった。アンケートでは

つくりと利用者の意識に訴えていくつもりだ。交通課の中村智哉巡査部長は「面倒だと感じるような近い距離の移動中にも事故は起きている。とにかく自分の命を守るためにヘルメットをかぶってほしい」と訴えた。